

ベネズエラ

IESA 高等経営研究所

(Instituto de Estudios Superiores de Administración)

坂口安紀

IESA Boys

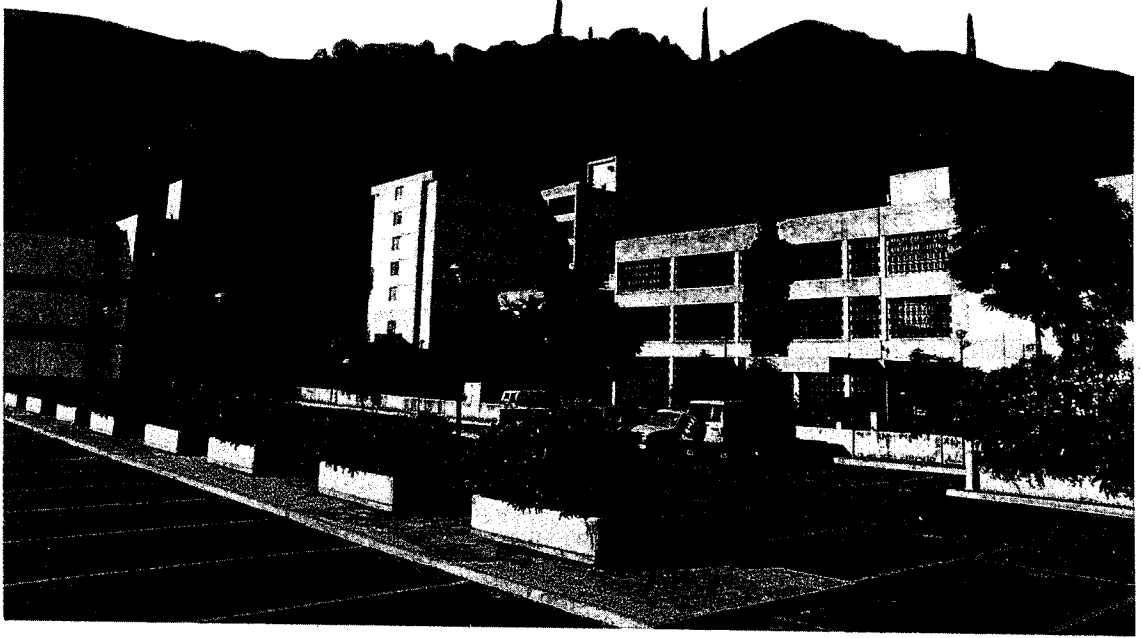
近年ベネズエラでは“IESA Boys”という言葉が聞かれるようになった。チリの“Chicago Boys”（1970年代後半以降で経済自由化を進めた、米国シカゴ大学経済学部出身のマネタリスト・テクノクラートたち）にかけた言葉である。ベネズエラでは、80年代までのポピュリスト政策、あるいはヘテロドクスの安定化政策を行ってきた経済官僚たちに代わり、89年以降カルロス・アンドレス・ペレス政権のもとで、米国式の新古典派経済学を修めた経済官僚および経済関係省庁の若手テクノクラートたちが中心になって経済自由化を推進したが、その多くが IESA（高等経営研究所）の教授または卒業生だったことからそう呼ばれるようになったのである。

IESA Boys の看板教授は、ペレス政権で経済企画省(Cordiplan)長官として経済自由化の中心的役割を果たしたミゲル・ロドリゲス(Miguel Rodríguez)教授である。同教授は当時米国エール大学より経済学博士号を取得したばかりの30歳すぎの若手エ

コノミストであったが、それ以外にも、リカルド・アウスマン(Ricardo Hausmann)教授、モイセス・ナイーム(Moises Naim)教授、アスドゥルーバル・バプティスタ(Asdrúbal Baptista)教授、フリアン・ビシャルバ(Julián Villalba)教授など、多くの IESA の教授がペレス政権下で経済閣僚、アドバイザーとして活躍していた。また当時勸業省を訪ねれば、IESA 出身の30歳前後の若手テクノクラートが数多く活躍していた。現カルデラ政権になってからは、大統領自身が自由化から距離をおいたスタンスを保っているため、IESA の教授陣は入閣していないが、経済系研究所・シンクタンクとして IESA は依然として国内でもっとも重要である。

経営者人材の育成

IESA は1965年に設立された民間の経済・経営研究所大学院であり、活動は主に三つに分けられる。まず、IESA はベネズエラ唯一の経営学修士課程を持つ大学院大学である。ベネズエラでは長年、急速な経済発展、企業の拡大の中で、マネージャー人材の不足が深刻であったため、IESA は何よ



IESA 高等経営研究所 (IESA のパンフレットより)

りもまず有能なマネジメント能力をもつ人材育成を目的に設立されたのである。米国の MBA(経営学修士)コースを模範に作られており、講義室や講堂には、ニューマン (Corimon グループ創始者)、ボルトン (酒造、運輸など伝統的な多角企業グループ) など、ベネズエラの重要な企業家の名前がつけられていて、米国のビジネススクールを彷彿させる。IESA の MBA スクールは毎年150人の学生を受け入れている。また IESA は、2 年間の修士課程の他に、数日から数カ月の短期経営学コースを頻繁に行っており、多くの企業が研修の一環として社員にコースをとらせることも多い。

企業にとって IESA の卒業生は、経営や分析の手法をたたきこまれた有能な人材というだけでなく、IESA で学生が培う他企業との人脈といううまみもある。というのも、学生は卒業後、国内主要企業の中堅以上のポストにつくものが多く、彼らを通じた他企業とのインフォーマルなネット

ワークは企業にとっても重要だからである。また、企業は、IESA 主催の各種フォーラムに参加したり、コンサルティングを依頼したり、社員にコースをとらせるなど、IESA と国内企業のつながりは強く、IESA は国内の企業人のためのフォーラム的役割も果たしていると言える。

加えて、経営のための人材提供という意味においては、卒業生の輩出のみならず、多くの IESA の看板教授たちが国内主要企業の経営に直接参画している。これは近年ベネズエラの企業が、所有の面では家族性を堅持する一方で経営の方は専門家にまかせるようになってきていることがその背景にある。ピニャング所長をはじめ多くの教授が、Banco Provincial, Corimon (化学系コンソーシアム) などの国内主要企業の取締役を兼任している。

経済・経営研究所

第2に、IESAは現在ベネズエラでもっとも重要な経済・経営研究所であり、専任研究員27人、専任教授28人、契約研究員・教授182人を抱えている。ロドリゲス教授らIESA出身の経済閣僚がペレス政権の経済自由化政策の中心的人物であったため、IESAは国内のネオリベラリズムの総本山というイメージが持たれているが、IESAの研究領域はそれよりもかなり幅広い。教授陣の中には経済史、政治学、社会学を専門とする教授もいる。所長のピニャンゴ教授は社会学者であるし、調査部長のA・フランセス (Antonio Francés) 教授は企業論が専門、教育部長のJ・ケリー (Janet Kelly) 教授は政治学者である。IESAで扱われている研究テーマは、企業研究 (ナウム教授、フランセス教授)、マクロ経済 (ロドリゲス教授、P・パルマ [Pedro Palma] 教授、アウスマン教授)、中小企業論 (P・エスケーダ [Paúl Esqueda] 教授、R・ロサレス [Ramón Rosales] 教授、A・N・マタロボ [Angel Díaz Matalobo] 教授)、経済史 (バプチスタ教授)、労働経済学 (G・ガルシア [Gustavo García] 教授)、政治経済学 (ケリー教授、J・C・ナバロ [Juan Carlos Navaro] 教授、R・クルス [Rafael de la Cruz] 教授) などさまざまである。

図書館は経済分野を中心に4万5000冊の蔵書を持つ。ベネズエラでは近年経済情勢が厳しく、一般に他の図書館ではなかなか新刊書を揃えられないのが現状だが、IESA図書館は新刊書、また米国をはじめとする外国の研究書・出版物、CD-ROM化された統計データベースや経済・経営系論文目録なども充実している。コンピューターによる独自の検索システムも持ち、ベネズエラの経済系の図書館の中ではもっとも整備されている(ただし一

般利用者に対しては、研究者や論文作成中の大学院生などに限り、金曜の午後のみ公開)。

またIESAは年間数多くの出版物を出している。定期刊行物としては *Debates IESA* (季刊) があるが、これはベネズエラの経済情勢の重要な分析誌となっている。それ以外にも数多くの研究書、ワーキング・ペーパーを出版しており、それらはベネズエラ経済・企業・政治などを学ぶにあたり、基本的な文献となっている。

受託研究・コンサルティング

最後に、IESAは経済・経営に関する受託研究、コンサルティング業務を行なっている。民間企業のみならず、世界銀行や米州開発銀行 (BID) などの国際機関、ベネズエラ政府などからの受託研究やコンサルティングを行なっている。また、年に数回公開シンポジウムやワークショップを行ったり、年度末にはマスメディアを通じてマクロ経済情勢分析や次年度の経済予測を発表している。本部はカラカスにあるが、数年前には、地方の工業都市においても人材育成、コンサルティング業務などを行なうために、マラカイボ、バレンシアの二工業都市に支部を設置した。

所 長：ラウル・ピニャンゴ
(Dr. Raúl Piñango)

所 在 地：Avenida IESA, Edificio IESA,
San Bernardino, Caracas,
Venezuela

郵 送 先：Apartado Postal 1640, Caracas,
1010-A

電 話：58 (ベネズエラ) -2-52-1533,
52-1600から1860

ファックス：58-2-52-4247

(さかぐち・あき／総合研究部)